

令和6年度心のバリアフリー教育グッドプラクティス 応募資料

学 校 名	千葉県立佐倉南高等学校	
ア 全校児童生徒数	446名	(令和6年5月1日現在)
イ 実践対象 (学年・人数など)	① 1・2年次(有志) 6名 ② 2年次(A・B組) 44名、さくら分校22名 2年次(C・D組) 47名、さくら分校22名 ③ 1・2年次(A～D組) 239名、3年次(4修制) 26名、 さくら分校(1～3年) 46名	
ウ 実践内容 (実施時期・概要など) ※画像の挿入可	① 11月9日(土)に植草学園の「高校生プレゼンテーションコンテスト2024」に参加し、障害者、人種差別、日本人と外国人についてまとめた、「みんな一緒～同じ人間だから～」を発表した。11月14日(木)同内容を学校運営協議会で発表した。 ② 11月27日(水)2年CD組とさくら分校の生徒で交流を実施した。交流では、両校の学校説明、長縄跳び、ペーパータワー、お玉リレーを行った。 12月9日(月)2年AB組とさくら分校の生徒で交流を実施した。交流では、両校の学校説明、長縄跳び、ボッチャを行った。 ③ 1月30日(木)に1・2年次、3年次4修制の生徒とさくら分校の全生徒で小集団での活動を予定している。本校とさくら分校の職員が特技や趣味などを講座にして、生徒から希望を取り、分校の生徒と共同学習を行う。今年度は、カードゲームで遊ぼう、ペーパークラフトなど30の講座を行う。	
エ 実践の普及啓発 (地域等との交流や 広報方法など)	① 「みんな一緒～同じ人間だから～」を学校運営協議会で発表 ② 佐倉南高校Webページに交流の様子の掲載予定 ③ 佐倉南高校Instagramに交流の様子の掲載予定 ・さくら分校Webページに交流の様子の掲載予定	
オ 実践成果 (児童生徒の変化など)	① 生徒は、調べ学習を通じて、共生社会についての理解を深めることができた。また、審査員賞を受賞することができ、自信をもつことができた。 ② 生徒は、交流を通じて、併設されているさくら分校が就労を目指している学校で、4つのコースがあることを知ることができた。また、本校の生徒は同じチームになった分校の生徒に話しかけた	



	り、一緒に交流のゲームを楽しんだりする中で、共生社会について考え、深めることができた。
カ 次 年 度 の 予 定 (課題や改善策など)	<ul style="list-style-type: none"> ①植草学園のプレゼンテーションコンテストに参加する。 ②体育祭、文化祭、共生社会と人間の授業、ソーシャルスキルトレーニングの一環の授業でさくら分校と交流し、両校の親睦を更に深める。 ③両校の生徒がより積極的に会話することができるように交流の流れや種目を検討する必要がある。
キ 添 付 資 料 (広報資料・Web記事など)	<ul style="list-style-type: none"> ②・佐倉南高校Webページ (R6年12月17日更新) ・佐倉南高校インスタグラム (R6年12月18日更新)

※A4サイズ2ページ以内に調整すること。